

2. 小論文について

I. あなたならどう書く

2013年 大阪大学 人間科学部 (180分)

問題1 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

(課題文：昨年通り入れてください)

問1 エコロジー概念の変遷についての著者の考えを200字以内でまとめなさい。

問2 エコロジーとエコノミーは、将来、どのような関係にあるべきだとあなたは思いますか？ヘッケルとリンネの考えを参考にしながら、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

問題2 省略

問題3 以下の英文は「tracking」とよばれる教育実践のあり方について述べたものである。これを読み、後の設問に答えなさい。

(問題文：プリント参照)

問1 トラッキングとは、どういった授業の実践の仕方を指しているのか、60字以内の日本語で簡潔に説明しなさい。

問2 筆者は、トラッキングという方法が採用された目的・理由は何であると説明しているか。また筆者は、その目的がこれまで必ずしも達成されておらず、その中で特に公平性(equity)の観点から問題になっている点があることを指摘している。その目的・理由と、問題点の両者を、あわせて240字以内の日本語で説明しなさい。

問3 省略

問題1は、翌2014年、神戸大学文学部の入試問題として、何と、全く同じ課題文が出題されています！問1で問われた「エコロジー概念の変遷についての著者の考え」の要約は、阪大が200字、神戸大が400字と字数の違いはありますが、両校で出題されました。また、問2のような「あなたの考え」を論述せよという問題も両校共が出題しています。つまり、「課題文を読んで、そこに述べられている事柄を把握し、自分の意見を論述するもの」は、最も典型的な「入試小論文」なのです。

また、問題3のような、「英語の長文を読んで、英語や日本語で論述するもの」も同じく入試小論文の典型です。論述力とともに英語の読解力も試されます。医学部を中心に難関大学の試験で課されることが多いタイプです。

どうでしたか。今のあなたに書けますか。今回紹介した阪大の場合など、180分と、試験時間は長いですが、課題文の分量も多く、内容も難しいですね。集中力を切らさず、正確に読解しきるだけでもなかなか大変です。こういった問題に対応し、合格を勝ち取る小論文を書くためには、具体的にどんな力が必要になるか、わかりますか？まとめると、次の5つです。

- ① 様々な分野の話題や多様な視点についての基礎的知識・情報を蓄えておく力
- ② 難易度の高い課題文を、素早く読み取り、正確に理解する力(英語力を含む)
- ③ 上記①の知識・情報の中から、適切な材料を瞬時に探し出す情報処理能力
- ④ 結論に向かってぶれることなく論理をつむいでいける思考力
- ⑤ 正しく読みやすい字で、わかりやすい文章を書ける表現力・筆記力

また、入試の採点者は何十人分も小論文を読むのに、みんな同じようなことを書いてあったとしたら、読もうという気も失せますよね。ですから、オリジナリティーは大切です。ただし、みんなと違うことを書こうとするあまり、問われてもない見当外れの方に論を展開するのは厳禁です。

II. 小論文への準備・対策

ここからは、大学入試で合格小論文を書くために、どんな準備が必要か、「6年生向け」と「3～5年生向け」に分けて紹介します。ただし、3～5年生も、「6年生のみなさんへ」を読んでから、次を読んでください。「なぜ、3～5年生で、そういう準備が必要なのか」は、6年生向けの説明を読むと、納得できるはずですから。

◆ 6年生のみなさんへ

平成校では毎年、6年生の中で、入試に小論文を必要とする人を対象に、個別添削指導を行っています。主にはセンター試験後の私立大学一般入試および国公立大学2次試験対策として、希望調査、指導担当教員の決定を経て、センター試験直後からスタートします。ただし、私立大対策や推薦入試対策で、一部、2学期のうちに添削指導をスタートする場合があります。早い段階で指導が必要になりそうな人は、まず、担任の先生と国語の授業担当教員に申し出てください。では、準備・対策のプロセスを順番に確認してみましょう。

① 志望校の過去問題を手・検討しよう！

まずは、過去問題をできるだけ集めて一通り目を通しましょう。自ずから、出題傾向が見えてくるはず。その分析から、すでに戦いは始まっています。

② 志望校の常識や関連情報を広く集め、身につけよう！

自分の意見を効果的に述べるには「材料」が必要です。そこで、情報収集が重要になってきます。集めて欲しい情報は大きく2種類です。1つ目は志望校に関連する情報や知識。過去問題で使用されている文献をチェックしたり、志望校の先生方(募集要項やホームページを参照のこと)の著作を読んでもみるのも有効です。この作業は、大学の面接や志望理由書の作成にも効果的です。

必要な情報の2つ目は、ここ最近の主な出来事についての情報や知識です。出題者は、常識的な知識を持ち、社会の発展にながしかの寄与ができる人材を求めています。あなたの中に、「情報の引き出し」をたくさん作って下さい。それには、新聞やテレビなど、メディアの報道に関心を持つことや、現代文を中心とする様々な授業で多様な分野の新しい視点や現代社会の論点などを意識的に吸収していくことが大切です。

小論文を使う可能性のある人は、今からすぐ始めましょう。

③ 実際に書く練習を繰り返し、添削指導を受けよう！

志望校の出題傾向をつかみ、「材料」も仕入れたら、次は勿論「書く」練習です。書いたら

必ず「添削」してもらおうこと。「他者の目で読み、指導してもらおう」ことは、上達への一番の近道です。

小論文を書くときには、いくつかの注意点と踏むべき手順があります。以下にその一般的なものを示します。参考にしてください。

【手順】

1. 問題文の内容を把握する。
2. 問われていることに対する「結論」を決める。
3. なぜ2のように考えるのか、理由やそれを説明するために使える「具体的情報・事例」を書き出してみる。
4. 2とは反対の立場を想定し、その意見の根拠や具体的事例について書き出してみる。
5. 手順2～4の内容を組み立てて、小論文の構成メモを作る。

ここまでで、持ち時間の半分を使って、構成さえできていれば、後は一気呵成に書ける。

6. メモに従って書く。
7. 見直しをする。

まず、最悪なのは「相手が聞いていることに答えていない」文章です。上記1・2を確実にする必要がありますね。次に「根拠の弱い」文章・「独りよがりで一方向的」な文章も高い評価は得られません。上記3・4が大切になってきます。これは、日頃からどれだけ高い意識を持って情報を吸収しているか、そしてそれについての思考力を養っているかが試されるのです。

そしてもう一つ、忘れてならないのは、「読みやすく、わかりやすい文章になっているか」ということです。この時大切なのは「論文の構成」ですね。手順5をとばしていきなり書き始める人が時々いますが、それは「設計図も描かずに家を建てる」ような「暴挙」ですよ。絶対ダメです。何の計画も立てずに書き出すと、論点が途中でずれて何が言いたかったのか自分でも分からなくなったり、字数に過不足が生じたりと問題発生の原因になります。

さて、その論文構成についてですが、どうやって組み立てればよいのか迷う人が多いようです。構成は必ずしも1つではありませんが、苦手な人はこんな構成を試してみてください。

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1段落 | 問題文の要約・問題点の整理と自分の立場（＝結論）の表明 |
| 第2段落 | 反対の立場に立っての分析（「たしかに…」という書き出し） |
| 第3段落 | 自分の意見の根拠・説得（2を受けて「しかし、やはり…」） |
| 第4段落 | 結論（まとめ）（「従って…」 「つまり…」 など） |

以上が、小論文を書くときの注意点です。その他、形式上気をつけて欲しい点を最後にあげておきます。

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| ①字を濃く、楷書で丁寧に書く。 | …採点者に読みやすく。 |
| ②同音同訓の誤字・脱字には注意する。 | …日頃の漢字力が大切です。 |
| ③常体（～だ・～である）に統一する。 | …説得力が増します。 |
| ④短文にして、主語・述語の呼応を確認する。 | …1文のめやすは60字以内。 |
| ⑤原稿用紙をきちんと使う（縦・横書きや、句読点・記号の位置）。 | |
| ⑥書きたいことごとに段落を分ける。 | …メリハリがつかます。 |

◆3～5年生のみなさんへ

6年生で必要なことを読んで理解したら、今、あなたが何をすべきかわかりましたか？

整理してみましょうね。

①多様な文章を読む。

良い文章をたくさん読むことで、自然に「わかりやすい文章表現」の素地が養われます。また、正確な内容把握の力を養うことにもつながります。

②多様な考え方・情報を吸収する。

知識・情報の収集は、6年生になってからでは遅いです。日ごろから、新聞やテレビの報道、読書、友人や家族との話など、あらゆる場面で意識的に収集し、吸収しましょう。

③自分の意見を言葉で伝えるトレーニングをする。

知識・情報をただ「へえ～」と吸収するだけではダメです。日ごろから、「自分ならこうする」「自分はこう思う」という「意見」を持つよう心がけましょう。

また、どうしてそう思うのかも含めて、友人同士や家族間で「議論」してみるのも役立ちます。自分の考えを伝え、説得するノウハウは、小論文に限らず、広く社会で生きていく上でも役立つ「コミュニケーション力」の一部です。

④あらゆる教科・科目の授業を大切にす。

小論文で入試にチャレンジし成功していった先輩達が口を揃えていったのが、「あらゆる領域の、重要だとされる内容は、本質的にどこかで“つながりあっている”ものだ」ということです。日々の授業で接する、一見「小論文」とは無関係に思える事柄の中に、「論理的に説得する方法」や「面白い視点・切り口」、「使える情報・知識」は大量に潜んでいます。先生の何気ない雑談も、「宝の山」かもしれませんよ。聞き逃すなかれ！

Ⅲ. おわりに

済美平成校のみなさんは、3年のときに全員が総合学習論文に取り組みます。長い文章を書いた経験があるという点では、他校の受験生よりアドバンテージがあるはずですが、また、全国広しといえども、才能が抜きん出た受験生が、ざらにいるというわけではありません。その差は紙一重です。とすればあとは、「絶対に受かりたい。」という強い気持ち次第。

私の大学受験のときにも小論文はありましたが、今ほど一般的ではなかったのです。それから幾星霜（笑）。これほど小論文が課せられるようになるとは……。では、予想外かといえば、そうでもありません。高等学校までは、極端に言えば、出された問題に対して、より速く、より正確に「1つの答え」にたどりつくかを試されます。大学という教育機関においては、まず「問題」を見つけ出すことが大切なのです。そして、言わば「唯一無二の正解」のない解答に向かって模索する過程が、解答と同じくらい重視されます。

どうですか。早く平成校を卒業して、大学で思いっきり学問をしてみたくなっただしょう。小論文は合格切符を手にするための試験の1つです。しかし、その対策において、自分自身と社会を見つめ、深く考えるという、あなたの年代の若者にとって大切なレッスンにもなります。すべてのことを糧にして、大海に向けて漕ぎだして下さい。Bon Voyage!!

◆参考図書

（第一学習社より 一部改訂）

分野	書名	著者名	出版社名
子供・若者	論争・少子化日本	川本 敏 編集	中公新書ラクレ

	若者はなぜ3年で辞めるのか？	城 繁幸	光文社新書
	無業社会 働くことができない若者たちの未来	工藤 啓 西田 亮介	朝日新書
	パラサイト社会のゆくえ	山田 昌弘	ちくま新書
	若者が社会的弱者に転落する	宮本 みち子	洋泉社
	なぜ日本人は劣化したか	香山リカ	講談社現代新書
環境	沈黙の春	レイチェル・カーソン	新潮文庫
	新・環境倫理学のすすめ	加藤 尚武	丸善ライブラリー
	地球環境報告Ⅱ	石 弘之	岩波新書
	循環型社会 持続可能な未来への経済学	吉田 文和	中公新書
	リサイクル幻想	武田 邦彦	文春新書
	原発社会からの離脱～自然エネルギーと共同体自治に向けて～	宮台 真司 飯田 哲也	講談社現代新書
国際	異文化理解	青木 保	岩波新書
	国際感覚ってなんだろう	渡部 淳	岩波ジュニア新書
	外国人労働者新時代	井口 泰	ちくま新書
	国際協力と平和を考える50話	森 英樹	岩波ジュニア新書
	国連とアメリカ	最上 敏樹	岩波新書
	ことばと国家	田中 克彦	岩波新書
日本 社会	「世間」とは何か	阿部 謹也	講談社現代新書
	「日本文化論」の変容	青木 保	中公文庫
	「かわいい」論	四方田 犬彦	ちくま新書
	かなり気がかりな日本語	野口 恵子	集英社新書
	日本辺境論	内田 樹	新潮新書
	母性社会日本の病理	河合隼雄	講談社+α文庫
教育 心理	教えることの復権	大村 はま	ちくま新書
	教育力	齋藤 孝	岩波新書
	教育改革の幻想	荻谷 剛彦	ちくま新書

	未来のきみが待つ場所へ 先生はいじめられっ子だった	宮本 征春	講談社	
	思考の整理学	外山滋比古	ちくま文庫	
	ちぐはぐな身体	鷺田清一	ちくま文庫	
福祉	持続可能な福祉社会 「もうひとつの日本」の構想	広井 良典	ちくま新書	
	当事者主権	中西正司・上野千鶴子	岩波新書	
	社会保障を問いなおす	中垣 陽子	ちくま新書	
	みんなでつくるバリアフリー	光野 有次	岩波ジュニア新書	
政治・経済	行政ってなんだろう	新藤 宗幸	岩波ジュニア新書	
	改憲問題	愛敬 浩二	ちくま新書	
	「小さな政府」を問いなおす	岩田 規久男	ちくま新書	
	21世紀の資本主義を読み解く	橋木 俊詔	宝島社	
	日本の今を知る経済学・経営学	関東学院大学経済学部	東洋経済新報社	
	「見えざる手」が経済を動かす	池上 彰	ちくま新書	
情報	ユビキタスとは何か	坂村 健	岩波新書	
	情報って何だろう	春木 良且	岩波ジュニア新書	
	爆発するソーシャルメディア	湯川 鶴章	ソフトバンク新書	
	メディア社会	佐藤 卓己	岩波新書	
	ネットはテレビをどう呑みこむのか	歌田 明弘	アスキー新書	
	科学技術	私のエネルギー論	池内 了	文春新書
ゲノム進化の読解法		岸野 洋久	岩波科学ライブラリ	
ゲノムが語る生命		中村 桂子	集英社新書	
生物と無生物のあいだ		福岡 伸一	講談社現代新書	
ロボット21世紀		瀬名 秀明	文春新書	
医療		医療の倫理	星野 一正	岩波新書
		医者が泣くということ	細谷 亮太	角川書店

気持ちのいい看護	宮子 あずさ	医学書院
生命観を問いなおす	森岡 正博	ちくま新書
脳死・クローン・遺伝子治療	加藤 尚武	PHP新書